

道ろについて

弓ヶ浜小学校 二年 濱田 梨花

学校から帰っておやつを食べていたら、お母さんに、

「道ろと聞いて何を思う?。」

と聞かれました。わたしは、前におばあちゃんが、

「むかし、おばあちゃんが子どものころは、よく道ろであそべていたのに、今は車も多いしあぶないね。」

と話していたのを思い出して、

「今の道ろは、大きな車がいっぱい走っていて、こわいし、あぶないなあ。」

と思い、お母さんにいいました。

わたしは、むかしみたいなあそべる道ろばかりだったらしいのに、どうして高そく道ろみたいな大きな道をいっぱい作るのかなあとふ思ぎに思い、夜お父さんに聞いてみました。

お父さんは、むかしみたいない小さな道ろばかりだったら、車で手紙やにもつをはこぶにも何日もかかってしまうし、五月に広しまにしゅう学りよ行に行ったお兄ちゃんたちも、長い時間バスにのって行かないといけない大へんなりよ行になるから、高そく道ろはひつようなんだよと、教えてくれました。

わたしは、それなら、日本中どこにでもいける道が早くつながつて、いろいろな所にかんたんにいけるようになったらいいなと思いました。

その後、お兄ちゃんが、前に道ろについてべん強したこと、いろいろと話してくれました。それは、道ろをつくるには、いっぱいのお金がいること、たくさんの人が、さむい日

もあついい日も、毎日一生けんめい長い時間をかけて工じしてつくっていること、みんながつかっているでん気、ガス、でん話、インターネットの線も道ろの下に通してあり、道ろがみんなの生活の中で、いろんなやくわりをはたしていることなどでした。わたしはビックリしました。

そんな大切な道ろにゴミをすてたり、らく書きなどをしてよごしたらいけないと思いました。道ろって、人が通ったり、車がはしったりすることだけじゃなく、わたしたちの生活に大切なものなんだなと思いました。

六月にわたしはかぞくでりよ行に行きます。高そく道ろを通って行くので、べんきょうしたことを考えながら、走ってみたいです。